



《NEWS》

お知らせ!

印西市油免遺跡(第2地点)現地説明会を開催

5月18日(土)、印西市船尾で発掘調査が進められています。油免遺跡第2地点で現地説明会が開催されました。当日はすっきりとしない空模様でしたが、熱心な考古学ファンが数多く訪れ、古代の人々の生活に思いをさせ、検出された遺構や遺物の説明に熱心に耳を傾けていました。



油免遺跡(第2地点)現地説明会

当センターでは、今後、ほかの遺跡においても現地説明会を開催する予定です。遺跡及び日時等の詳細はホームページにてご確認ください。

《ご案内》

第6回遺跡発表会の開催

7月20日(土)、佐倉市立中央公民館大ホールにて第6回遺跡発表会を開催します。

特別講演：國學院大學教授 小林達雄

「縄文人の記念物」

調査成果報告：本埜村瀧水寺裏遺跡(旧石器時代)

佐倉市井野長割遺跡(縄文時代後・晩期)

佐倉市大塚塚西台2号墳(古墳時代前期)

また併せて、当センターの考古資料展示室において今回発表を行う遺跡の出土遺物を展示した「最新出土考古資料展」を開催いたします。どちらも無料にて参加できますので、ぜひ一度ご来場ください。

瀧水寺裏遺跡への遺跡名変更のお知らせ

本誌フィールドブックvol.7・vol.11でもご紹介した本埜村龍腹寺裏遺跡の遺跡名が瀧水寺裏遺跡に変更となりました。これからは遺跡発表会・調査報告書を含め、瀧水寺裏遺跡を用いることになっていきますので、お間違えのないようお願い申し上げます。

《発掘中の遺跡》

6～9月予定

がんばってます!

<成田市>

台方下平Ⅱ遺跡(弥生～奈良・平安時代)

大室仲妻遺跡(奈良・平安時代、近世)

南三里塚宮原第1遺跡(旧石器時代)

下金山城跡(中世)



台方下平Ⅱ遺跡調査風景

<佐倉市>

井戸作 遺跡(縄文時代)

江原台遺跡(弥生～奈良・平安時代)

<四街道市>

笹自沢Ⅰ遺跡(奈良・平安時代)

<印西市>

天神台遺跡(第11地点)(弥生～奈良・平安時代)

<富里市>

滝台遺跡(縄文、奈良・平安時代)

《室内作業》

こつちもやっています!

<本部>

佐倉市鎌木町198-3 TEL 043-484-0126

南作遺跡(四街道市、縄文～奈良・平安時代)

権現堂遺跡(四街道市、弥生時代～中世)

笹自沢 遺跡(四街道市、奈良・平安時代、近世)

生谷松山遺跡(佐倉市、縄文時代)

天神台遺跡(第9地点)(印西市、弥生～奈良・平安時代)

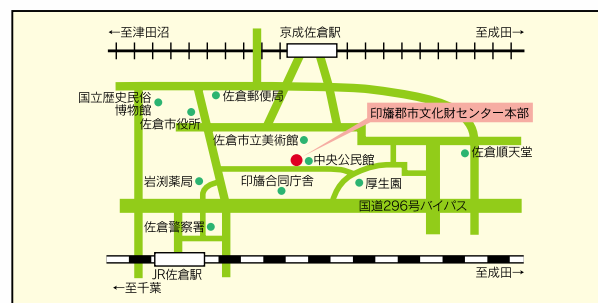
<成田事務所>

成田市飯仲字台畑330-1 TEL 0476-26-7208

成田市出土品整理(成田市)

《お知らせ》

上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを!



広報誌 フィールドブック vol.12 発行・編集 財団法人 印旛郡市文化財センター 〒285 0025 千葉県佐倉市鎌木町198-3 ☎ 043-484-0126(代) 図 043-485-9871 平成14年6月15日 http://www.inba.or.jp/ http://www.inba.or.jp/i/



成田市南団護台遺跡 (第3地点)



13号住居跡「鉸具」出土状況



13号住居跡完掘状況



出土土器

JR成田駅西口から南西方向約800mの台地上に南団護台遺跡(第3地点)は位置します。総武本線は台地間の低地を走っているため、やや見上げるようになります。遺跡のある台地は約32m～35mの標高があり、南西から北西方向に約1kmと細長く伸びた地形となります。根木名川に注ぐ小橋川と印旛沼に注ぐ江川の両河川によって開析され、台地は複雑な樹枝状を呈しています。そして、団護台、馬橋の地名で呼ばれるこの台地は、過去数度にわたって調査がおこなわれてまいりました。今回の調査区は台地の先端部分から約300mの細長い部分で、道路拡幅工事に先立ちおこなわれました。調査の結果、竪穴住居跡16軒、掘立柱建物跡4棟、土坑7基、溝状遺構1条などが確認され、今回紹介するのはその内の13号住居と呼んでいる住居跡です。この住居跡がある部分は遺構の密度が非常に濃いところで、住居跡だけでも7軒ありました。

この住居跡は他に2軒と切り合い関係(古い遺構に新しい遺構が重なるように築かれたもの)がありましたが、そのどちらよりも新しい住居跡であることがわかりました。また、住居内に残されていた土器の年代から、奈良時代で8世紀後半に築かれたものでした。

発見された遺物の中に青銅製の「鉸具」と呼ばれる装身具があり、それを紹介したいと思います。鉸具とは今のベルトの留金部分にあたり、昔は馬具にも用いられていました。鉸具以外にも巡方、丸鞆、鉞尾と呼ばれるパーツで帯金具(ベルト)を構成していました。使用されていた時代は4世紀の終わりから8世紀にかけてで、形にも多くのバリエーションがあったようです。実はこの帯金具は素材や形により時代や装着していた人物の身分までがわかります。南団護台出土の鉸具は6世紀から7世紀の物ですが、どのような人が身につけていたかはわかりません。ここで不思議なのは土器と鉸具の年代に開きがあることです。鉸具が単独で出土していることを考えると、代々その家に伝わり、家宝として伝世していったのではないのでしょうか。持ち主に興味が湧いてきませんか。



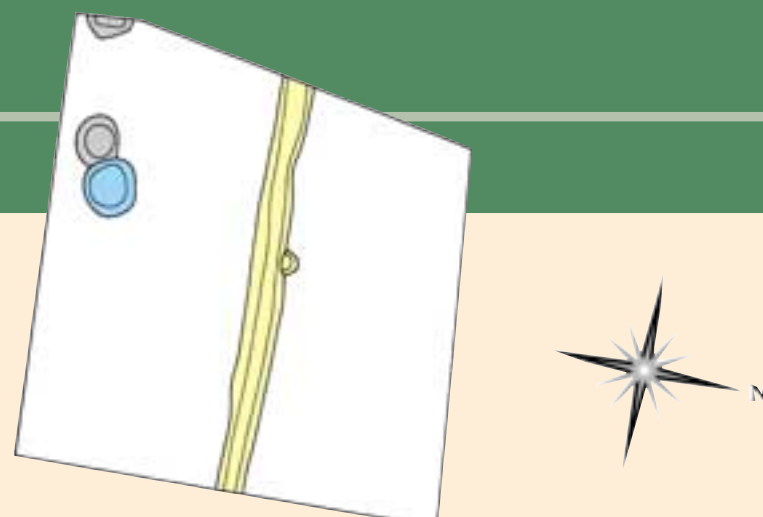


# 六崎貴舟台遺跡

## (第10次)

六崎貴舟台遺跡は、JR佐倉駅から南へ約1 kmの場所にあります。遺跡周辺は各種の開発が頻繁に行われており、それに伴い発掘調査も多く、今回の調査で第10次を数えます。その結果縄文時代から中近世まで、断続的にこの地で生活が営まれていたことがわかってきました。

今回の調査は平成13年12月3日から26日まで実施され、縄文時代と中近世のものが見つかりました。縄文時代のものは、今から約4000～4500年前の墓と考えられる土坑が見つかり、特に31号土坑からは注ぎ口がある土器の他、ヤマトシジミの貝殻がブロック状で出土しました。これらは死者と共に納められたものと考えられます。中世のものは掘立柱建物跡(ほったてばしらたてものあと)、井戸跡等が見つかりました。井戸の跡が見つかったことから、中世では生活の場であったことがわかります。遺跡からは13世紀末から14世紀初頭の土器が出土しているので、この時期の建物かもしれません。文献上では13世紀後半には六崎の地名がみられ、当時印東庄(いんとうのしょう)の地頭(ぢとう)であった千葉氏と関係の深い氏族が領主であったと考えられています。想像を逞(たくま)しくすれば、この千葉氏系の領主がこの場所を本拠とし、六崎の地を治めていたのかもしれません。



六崎貴舟台遺跡の位置

縄文時代土坑    中近世井戸跡    中近世土坑  
中世掘立柱建物跡    中近世溝状遺構



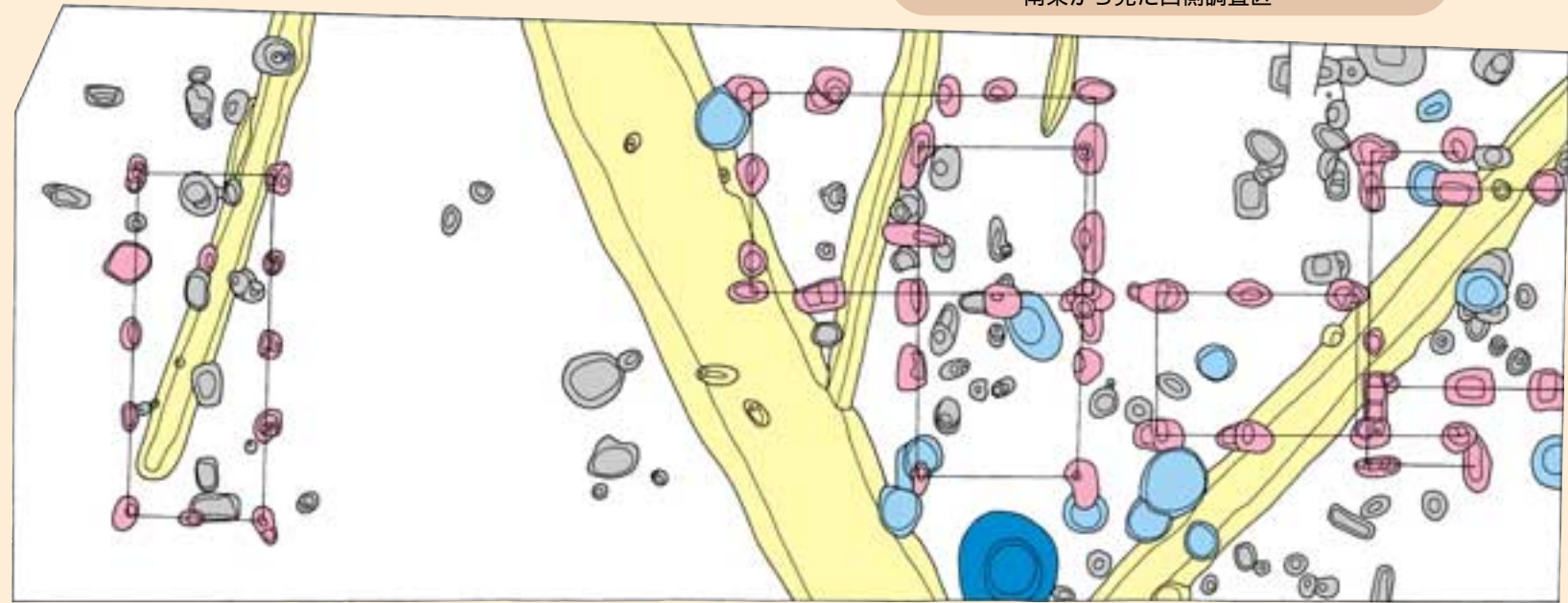
南東から見た西側調査区



1号掘立柱建物跡



北側から見た東側調査区



3号掘立柱建物跡



1号井戸跡



31号土坑遺物出土状況



4号掘立柱建物跡